



四国大学は、これまでの 100 年を礎に、これからの 100 年を創造します。

報道関係者 各位

令和 7 年 6 月 30 日

四国大学／四国大学短期大学部

学長 松重 和美

四国大学学園創立 100 周年記念事業 第 60 回創作舞踊研究発表会「表現人」について

平素は本学の教育研究活動にご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度は、学園創立 100 周年と同時に本学で最も長い伝統を持つ「創作舞踊研究発表会」は 60 周年を迎え、7 月 18 日（金）藍住町総合文化ホールにて、学園創立 100 周年/表現人 60 周年の記念公演を開催します。

前半は、「表現人 60 年の歩み」として、歴代の教員や卒業生とこれまでの表現人の教育的価値やその成果を振り返るシンポジウム、後半は、児童学科・幼児教育保育科の 2-3 年生や留学生（ネパール、インドネシア）による発表に加え、100 周年にちなみ、幼児教育保育科 1-2 年生および教職員・地域住民、総勢 100 名超による「サマンの踊り」が披露されます。多様化、国際化する本学の状況を象徴する 100 人の迫力ある踊りに、乞うご期待ください。

つきましては、次のとおり開催いたしますので、開催告知および取材等ご配慮くださいますよう、よろしくお願いいたします。

記

- 日 時：令和 7 年 7 月 18 日（金）開場：18:30 開演：19:00
- 場 所：藍住町総合文化ホール
- 入 場：無料、申込不要

以上

< 本件に関する問合せ先 >

四国大学短期大学部

幼児教育保育科 林

TEL: (088)665-9826（平日 9～17 時）

四国大学学園創立100周年記念事業

表現人



第60回 四国大学 創作舞踊研究発表会 [テーマ] 乙巳(きのとみ)の祝祭

7/18 金

18:30開場 19:00開演

場所／藍住町総合文化ホール
板野郡藍住町奥野字矢上前32-1

入場無料

主催：四国大学



H Y O G E N J I N 2025

人が集まる「人」をつくる、大学。



SHIKOKU UNIVERSITY
四国大学

〒771-1192 徳島市応神町古川字戎子野123-1
TEL 088-665-1300(代表) FAX 088-665-8037
<https://www.shikoku-u.ac.jp/>



「四国大学創作舞踊研究発表会」は今年で60回目を迎えます!

「四国大学創作舞踊研究発表会(表現人)」は、教職を目指す児童学科と幼児教育保育科の2年生によって引き継がれ、今年で60回目を迎える本学で最も長い伝統を持つ行事です。2025年は、学園創立100周年と「四国大学創作舞踊研究発表会(表現人)」60回目の節目の年の記念公演として、歴代の先生方と卒業生によるシンポジウムや本学教職員による演目などを予定しています。



テーマ「乙巳(きのとみ)の祝祭」

2025年は「乙巳(きのとみ)」の年。60年に一度訪れる干支であり、変化と新たな挑戦のエネルギーが高まる年だそうです。60回という節目を迎える表現人は、新たな時代に向け挑戦に溢れる祝祭をイメージして、このテーマを選びました。

プログラム

■開会式

■オープニング ときめきダンスカンパニー四国(TDCS)

■「表現人60年の歩み」～シンポジウム～ 司会：林 夏木(四国大学幼児教育保育科・准教授)

＜出演＞河上 陽子(四国大学名誉教授)

田村 典子(四国大学名誉教授)

三原 勇気(平成26年度児童学科卒/(株)ぎゅぎゅっとハッピー代表取締役)

高岡 秋生(平成28年度児童学科卒/上板町立高志小学校教諭)

長尾 美春(平成30年度幼児教育保育科卒/徳島市親子ふれあいプラザ勤務)

■発表

＜出演＞ 幼児教育保育科1-2年生、児童学科2-3年生、
留学生2-3年生、教職員、地域の方々

■閉会式

■フィナーレ

先輩からのメッセージ Message

児童学科3年 中野 友成さん
(第59回表現人運営委員長)



表現人60周年、心よりお祝い申し上げます。この場で得た仲間や経験は、今も私の大きな支えとなっています。どんな時代でも、自分らしい表現を探し続けることは難しながらも大切だと感じています。表現を通じて、自分自身をもっと知り、他の人たちとつながっていけることは、貴重な経験です。皆さんが日々練習を積み重ね本番で発揮できることを願っています。

令和6年度幼児教育保育科卒 関口 美咲希さん
(第59回表現人運営副委員長)



四国大学の100周年、そして表現人の60周年、本当におめでとうございます。これまでの歩みに心から敬意を表します。これからもこの素晴らしい活動が続きますよう、ますますのご発展をお祈りしています。

昨年私たちは素敵なステージに立たせていただきました。作品を作る中で、ぶつかり合い不安になることもありましたが、本番をやりきったときの感動、達成感は本当に最高でした。失敗を恐れず自分らしい表現を楽しんでください!素敵な作品が生まれることを楽しみにしています!